

笹川保健財団 地域啓発活動助成

助成番号：2021-004

2022年 3月 1日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2021年度地域啓発活動助成 活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

地域在宅ネットワーク会議

活動者（助成申請者）名：

一般社団法人 在宅看護センター北九州 代表理事 坂下 聡美

令和4年3月1日

2021-004

活 動 報 告 書

一般社団法人 在宅看護センター北九州
代表理事 坂下 聡美

1. 活動の内容・実施経過

「第4回 地域在看ネットワーク会議」

- ① テーマ 「10年後の私たちの未来」～在宅看護の未来像～
- ② 開催日時 令和3年12月11日(土) 13:00～17:00
- ③ 場所 北九州学術研究都市 産学連携センター1号館 特別会議室
北九州市若松区ひびきの2-1 FAIS (093)-695-3003
- ④ 参加者数 20名(当日参加者)
YouTube 録画編集のうえ公開配信



⑤ 特別企画（座談会）

（論説者①） 魚住 武則 先生

北九州総合病院 神経内科 難病支援
元）産業医科大学 診療教授（神経内科）
元）産業医科大学病院 認知症センター長



（論説者②） 柴田 智広 教授

工学博士（東京大学）
九州工業大学大学院 生命体工学研究科 人間・社会的知能システム専攻
スマートライフケア共創工房



(論説者③) 武内 和久 先生

BLOOMIN 'JAPAN 株式会社 代表取締役

元) 厚生労働省官僚

元) マッキンゼーコンサルト マネジング・ディレクター

元) アクセンチュア マネジング・ディレクター

福岡歯科大学客員教授

慶応義塾大学医学部講師

九州国際大学客員教授



2. 活動の成果

弊社主催の地域在看ネットワーク会議は、地域社会の皆さまに対して、保健啓発活動を行い、併せて、地域における社会資源のネットワークづくりを目指している。

今回は、①「テクノロジー・創薬」 ②「社会制度」 ③「健康」の3つの切り口から、地域の皆さまが、明るい未来、希望のある社会を描きながら、「生き方」や「健康」などについて、もう一度振り返っていただくものであった。

専門家による座談会の論議が、未来を切り拓く原動力となり、「保健予防活動」の打開のヒントになると考えられる。

(1) 活動コンセプト

『誰もが住み慣れた地域社会で、自分らしく・・・』

(2) 方向性

『希望のある社会像を描く』『健康意識を高めていく』

(3) 座談会について

座談会では、「テクノロジー・創薬」・「社会制度」・「健康」の3テーマから、3人の専門家に「十年後の未来」を描いていただき、活動コンセプトに向けた自由な論議を展開している。(各テーマの所要時間を20分程度です。) ※YouTube録画配信



3. 今後の課題

世界的な感染症リスク、不可逆的な在宅医療（在宅看護）の流れ、加速された情報社会、このような社会情勢もとで、新たなスキームを模索しなければならない。

地域在宅ネットワークでは、地域社会の新たなコラボレーション、多角的な地域啓発活動を追求しており、ひとの出会いや役割、協働の大切さも踏まえながら、有用な情報を発信していく仕組みでもある。このような保健活動が、さらに地域社会から信頼をいただけるよう、新たな在宅の展開も行っていく。

また、地域啓発活動は、社会に眠る「潜在的な看護力」やスタッフの掘り起こしにも有用である。地域のことを思い、自分の考えを地域に自ら発信することは、スタッフの意識改革でも重要であり、参加者から多大な反響もある。地域啓発活動を「人材育成と人材発掘」にも活用していきたい。

4. 活動の成果の公表予定

福岡県看護師協会

「ふれあい看護教育」 高校生用資料

北九州市社会福祉協議会

「地域づくり活動」 イベント資料